

令和元年 校内研主題・設定の理由等

(1) 研究主題

自ら分かろうとする生徒の育成
～多様な学び合いを取り入れた指導の工夫を通して～

(2) 主題設定の理由

社会や産業の構造が変化し、質的な豊かさが成長を支える成熟社会に移行している今日、知識・情報・技術をめぐる変化の早さが加速度的となり、人間の予測を超えて進展するようになってきている。この予測困難な時代に生きる生徒たちには、様々な情報や出来事を受け止め、予測できない変化に対処するだけでなく、学習によって新たな価値を生み出していく過程を通して、物事に主体的に向き合い、自分を社会の中でどのように位置づけ、社会をどう描くかを考え、他者と共に生き、課題を解決していくとともに、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていける力を身に付けていくことが求められる。

これまで、社会に開かれた教育課程の実現に向けて、中央教育審議会では「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」において、新しい時代にふさわしい学習指導要領の基本的な考え方や、教科・科目等の在り方、学習・指導方法及び評価方法の在り方等に関する基本的な方向性が議論されてきた。そして、平成 28 年には「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」を受け、同年「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」の答申がなされている。

日南市でも平成 27 年度の教育基本構想の中で新時代を生き抜く「4つの学ぶ力」を育てることを打ち出し、「他者から学ぶ力」「自ら学ぶ力」「自然から学ぶ力」「社会から学ぶ力」の4つの力の育成を目指している。その根底には、子どもたち一人一人が4つの視野を意識することで、自らのもつ特性の活かし方を知り、自分に合った学びの在り方を実感することで、生涯にわたって学ぶ意欲をもつことへとつながるという理念があり、学校教育の様々な場面で実践されている。

本校では、前年度まででグループ活動における協働的な学びを充実させることや効果的な学び合いを取り入れた授業実践を柱に、各教科における基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、問題解決のためのグループ活動を通じた協働的な学び合い及び家庭学習の充実を図るための方策に視点を当て、主体的に学習に取り組む生徒の育成を目標とした研究を進めてきた。その結果、自力解決に基づく学び合いにおいて、友だちから知識や技能、考え方や価値観を学ぶ姿が見られたり、学習内容の理解を深め、自分の考えに自信をもつ機会になったりしたとの成果を得ることができた。一方、何を達成させるための学び合いなのか、どの場面で設定していくのか等、教師がそれぞれ工夫して実践していく必要があることや、学力差に関わりなく積極的な学び合いとなるような自力解決の場面の確保や、学び合いの場面でのルール決め等、教科共通の理解の上で実践していく必要があることが課題として挙げられた。

今年度は、研究の2年目となる。これまで取り組んできた校内研究の成果を生かしつつ、昨年度、研究の1年目として多様な学び合いを取り入れた指導を通して、引き続き個々の生徒がどのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという物事を捉える視点や考え方を他者と共有させながら、「何を理解しているか、何ができるか（知識・技能）」「理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力）」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」の三つの資質・能力の育成に取り組んでいきたい。

以上の取組を行うことで、本校の生徒が抱える課題を解決し、自ら分かろうとする生徒の育成がなされ、本校の教育目標である「心豊かで高い志をもち、実践できる生徒の育成」の実現につながると考えられる。

(3) 研究の目標

自ら分かろうとする生徒を育成するために、「多様な学び合い」を取り入れた指導の工夫を行う。

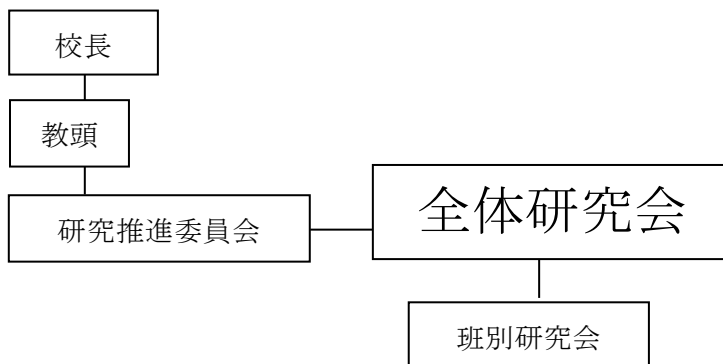
(4) 研究の仮説

- 教科の特質を生かした多様な学び合いを取り入れた指導の工夫を図り、互いに関わり認め合う雰囲気醸成していけば、生徒は自信を高め、理解が深まり、学習意欲の向上につながるであろう。

(5) 研究の内容

- ① 教師全員による授業研究会の実施
 - ・ 自力解決の場面と多様な学び合いの場面の設定
(学習内容の定着と理解を深めるための学び合いを促す教師側の手立てを指導案に明示する)
 - ・ 授業の構造化を図る授業実践
(学習課題の設定、学び合う時間の確保、授業の振り返り)
 - ・ 評価シートを活用した事後研究会
- ② 朝学習の活用 (5教科)
 - ・ 学ぶ喜びや学ぶ意欲の向上を図る
- ③ アンケートの分析
 - ・ 全国学力学習状況調査やみやざき学習状況調査、実力テストの分析
(弱点の強化を図る授業の改善・工夫につなげる)
- ④ 家庭学習のすすめかた
 - ・ 「ライフスケッチブック」の活用
 - ・ 各教科における宅習のやり方の定着を図る (「家庭学習の手引き」の活用)

(6) 研究の組織



(7) 研究の計画

月	研究の重点内容	実践内容等
4	・研究の基本方針、研究内容の検討	・研究主題、研究内容、組織等
5	・指導案形式・評価シート検討 ・アンケート実施 ・全国学力状況調査・みやざき学習状況調査の採点	・多様な学び合いについて ・アンケート作成・実施
6	・班別活動 ・全国学力状況調査・みやざき学習状況調査の分析及び授業改善	・班別取組の授業実践 ・アンケートのグラフ化 ・授業改善
7	・班別活動	・班別活動の授業実践
8	・アンケート分析 ・班別取組内容の評価と改善策検討	・アンケート分析・実態把握 ・全体共有への準備
9	・全体共有の内容提案・取り組み (授業研究会)	・全体共有の内容実践
10~12	・授業研究会	・授業実践、評価
1	・授業研究会 ・アンケート実施	・授業実践、評価 ・アンケートのグラフ化
2	・アンケート分析	・アンケートの分析・実態把握
3	・研究の成果と課題	・次年度に向けた取組確認